祝　辞　（要旨）

京都大学iPS細胞研究所　名誉所長／教授
京都大学iPS細胞研究財団　理事長
山 中 伸 弥　様

京都大学iPS細胞研究所の山中伸弥です。

本日は，公益財団法人東レ科学振興会設立60周年，誠におめでとうございます。

長年にわたり，日本の科学技術，特に基礎技術の発展に非常に大きな貢献をされていますことに心よりの敬意と感謝の意を表します。

わたくし自身も貴財団の研究助成金をいただいた一人です。ちょうど20年前の2003年，奈良先端科学技術大学院大学，遺伝子教育センターで教授をしておりました時に1,100万円という非常に大きな研究助成金をいただきました。私の記憶では，それまでにいただいた研究助成金の中で最大のものであったと思います。金銭的なご支援も非常に大きかったのですが，それ以上に貴財団の研究助成金をいただくということによって，私自身，さらには研究室のメンバーのモチベーションが非常に高まりました。

研究助成金をいただいた時の研究題目は，「ES細胞における分化多能性と高い増殖性の維持機構」です。当時，私自身，体細胞からES細胞と同じような細胞を作れるかどうかということはまだ全く暗中模索，先が見えない状況でした。そのような中で，私たちの基礎研究に対して，非常に大きなご支援をいただきましたことが，その数年後にiPS細胞の樹立につながりましたので，貴財団のご支援がなければ，iPS細胞ができていなかったかもしれないと思っています。改めて感謝の意を強くしております。その後，京都大学に移ってからiPS細胞ができたわけです。

現在は国内外の多くの研究者と共にiPS細胞の基礎研究を進めるとともに，その医療応用である再生医療と創薬という二つの実現に向けて一生懸命努力をしています。

基礎研究は0から1を作るという意味で非常に重要な分野であります。長年にわたり，基礎研究に対して非常に大きな支援を続けておられます貴財団の活動に，改めて心より御礼を申し上げるとともに，本日お集まりの皆様，そして貴財団のますますのご発展を祈願いたしまして，私のご挨拶とさせていただきます。本日は設立60周年，本当におめでとうございます。

ご静聴ありがとうございました。